設置工事説明書

RKW-453A
RKW-453B
RKW-453C

リンナイ
食器洗い乾燥機

工事される方へのお願い

- この機器を正しく安全にご使用いただくために、この設置工事説明書をよくお読みになり、法律に基づいて指定された工事を行ってください。
- 配管工事はすべて、水道法、建築基準法、各都市の条例規定に準じてください。
- 設置工事が終ったら「8　設置工事後の点検」のチェックリストに基づいて、必ず再確認してください。
- 工事終了後は、この設置工事説明書を取扱説明書の中にはさんで、お客様へ渡してください。
- 試運転終了後、安全のため水道の元栓を閉じてください。

- 本機は建築基準法に基づく、排水管接続直結タイプです。

もくじ

1　安全上のご注意 ―― 1
2　各部の名称および寸法図 ―― 3
3　付属品の確認 ―― 3
4　設置場所について ―― 4
5　電気工事 ―― 5
6　配管工事 ―― 6
7　設置工事 ―― 8
8　設置工事後の点検 ―― 14
9　試運転 ―― 14
10　ケコミカバーの取り付け ―― 15
11　お客様への取り扱い説明 ―― 15

1 安全上のご注意

この設置工事説明書では製品を正しく設置工事をしていただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告	この表示を無視して誤った設置工事をすると、あなた及びお客様が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを表しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った設置工事をすると、あなた及びお客様が傷害を負う可能性が想定される、また、物的損害のみの発生が想定されることを表しています。

絵表示について次のような意味があります。

一般的な注意（警告含む）

一般的な禁止

必ず行う

アース線の接続

■設置・工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れの仕方を説明してください。

⚠警告

お客様へ

据え付けはお買い上げの販売店または専用業者に依頼する。
- ご自分で据え付け工事をされ不備があると水漏れや感電・火災の原因になります。

工事される方へ

アースを確実に取り付ける。
- 故障や漏電のときに感電する恐れがあります。
- アースの取り付けは販売店にご相談ください。

定格15Aのコンセントを単独で使用する。
- 他の機器と併用すると分岐コンセント部が異常発熱して発火することがあります。

電源プラグは、刃および刃の取付面にほこりが付着している場合は、よく拭く。
- 火災の原因になります。

電源プラグは、根元まで確実に差し込む。
- 差し込みが不十分の場合、感電や発火の原因になります。

⚠注意

工事される方へ

電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントの差込みがゆるいときは使用しない。

●感電・ショート・発火の原因になります。

交流100V以外では使用しない。

●火災・感電の原因となります。

電源コードを傷付けたり、破損したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしない。また重い物を載せたり、挟み込んだり、加工したりしない。

●電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。

設置工事部品は必ず付属品及び指定部品を使用する。

●当社指定部品を使用しないと、水漏れ、火災、感電の原因になります。

製品の移動や据え付け時は手袋をして作業を行う。

●万一のけが防止のためです。

給湯、排水配管の端面はバリのないよう処理する。かつ管内に残っている異物（切り粉など）を完全に取り除く。

●配管つまりによる故障の原因となります。

凍結の恐れがある場所（室温０℃以下）へは設置しない。

●水漏れの原因になります。

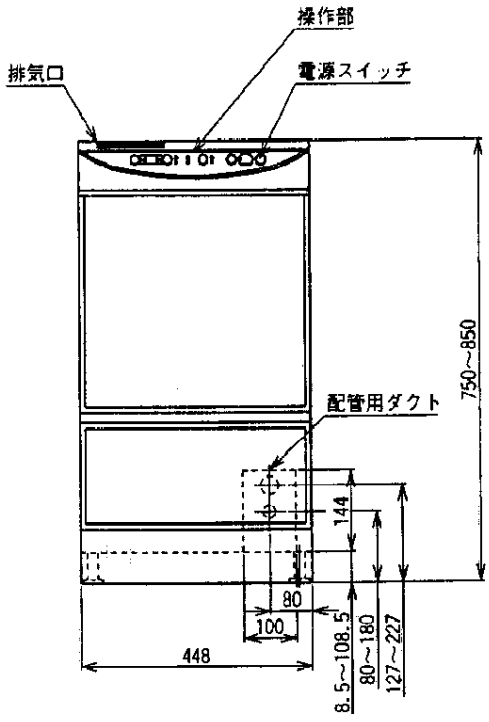
電源回路は専用回路として、漏電しゃ断器を設置する。

●主幹に漏電しゃ断器が設けてある場合は、新たに漏電しゃ断器を設置する必要はありません。

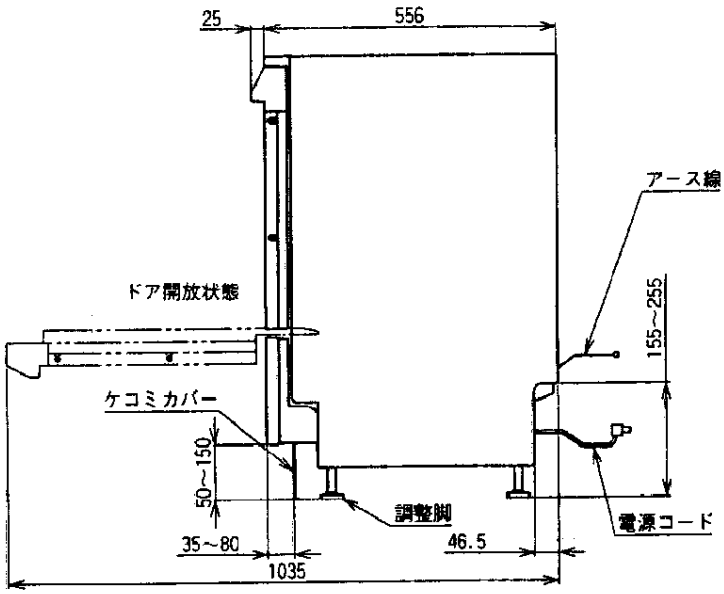
電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを抜く。

●感電・ショート・発火の原因になります。

2 各部の名称および寸法図（単位：mm）



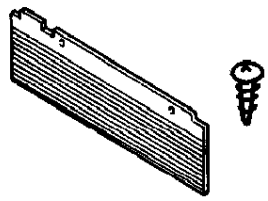
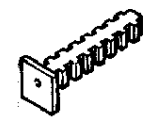
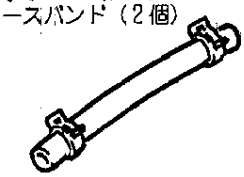
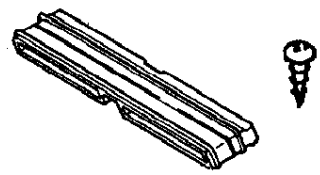
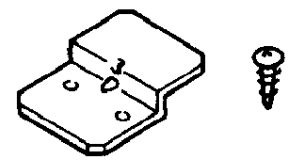
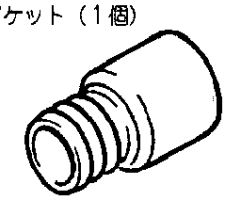
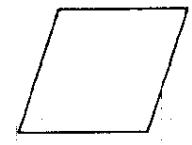
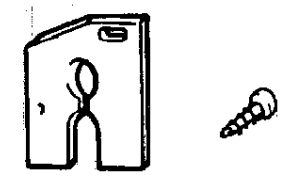
（図1）



（図2）

3 付属品の確認●設置工事を始める前に付属品の有無を確認してください。

ご使用時に必要な付属品
（お客様用）
○専用洗剤 計量スプーンつき（100g）
RKW-453Cのみ ○乾燥仕上げ剤（40mℓ）

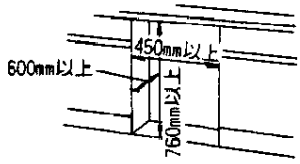
設置工事に必要な付属品		
（設置用）		（配管用）
○ケコミカバー（1個） ○タッピンねじ（2本）（黒頭） 	○ケコミ調節（2個） 	○排水ホース（55cm） ○ホースバンド（2個） 
○排気ダクト（1個） ○シールパッキン（1個） ○タッピンねじ（1本）（黒頭） 	○転倒防止金具（2個） ○タッピンねじ（4本）（M5ねじ） 	○ソケット（1個） 
○タッピンねじ（2本） （上部飾り固定用）	○型紙（1枚）  （本体上部にあります）	○ホースホルダー（1個） ○タッピンねじ（1本） 
		○フィルター付パッキン（1個） （配管についています）

4 設置場所について

1 設置場所の確認

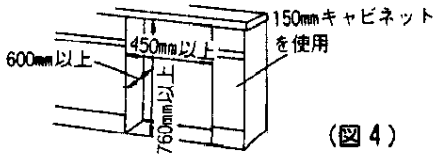
1．ビルトインスペースの確認

●中間にビルトインする場合



（図3）

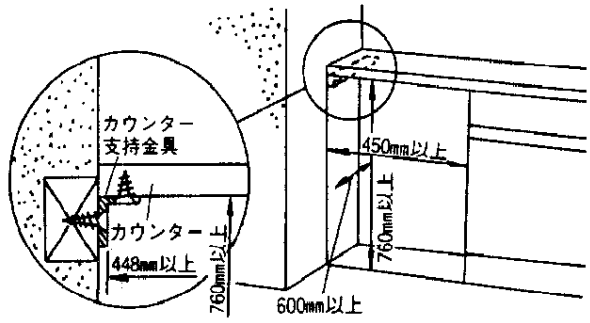
●片側がフリーの場合



（図4）

※片側がフリーの場合、幅150mmキャビネットなどを使用して、カウンターを支えるなどの処置を施して、食器洗い乾燥機をビルトインしてください。

●片側が壁面及び、トールユニットの場合



（図5）

※カウンター支持金具は市販のL金具をご使用ください。
※カウンター支持金具を固定する場合、図5に示す寸法を必ず確保してください。

2．本体高さ寸法の確認

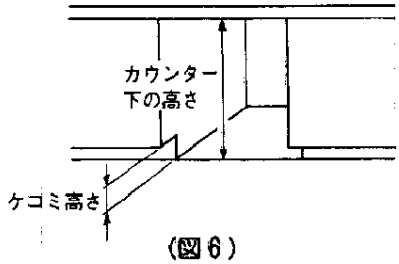
本体の高さを、カウンター下の高さより10mm低い寸法にします。
表1の□で示した寸法です。

例）カウンター下の高さ760mmの場合
本体高さ寸法　760－10＝750（mm）

※本体高さの調整範囲は750～850mmです。

◎RKW-453Cで上部フィラーがついているものは、本体高さを調整することでケコミ高さをキッチンのケコミ高さと合わせることができます。
あらかじめ、キッチンのケコミ高さとカウンター下の高さを測定し、表1より本体の高さ寸法を決めてください。

※キッチンのケコミ高さとカウンター下の高さの組み合せによっては、本機とキッチンのケコミ高さが合わない場合があります。



（図6）

本体の高さ寸法

単位（mm）

キッチンのケコミ高さ ＼ キッチンのカウンター下の高さ	760	765	770	775	780	785	790	795	800	805	810	815	820	825	830	835	840	845	850	855	860
50	750	750	750	750	750	750	750	750	750	750	750	750	750	755	760	765	770	775	780	785	790
55	750	755	755	755	755	755	755	755	755	755	755	755	755	755	760	765	770	775	780	785	790
60	750	755	760	760	760	760	760	760	760	760	760	760	760	760	760	765	770	775	780	785	790
65	750	755	760	765	765	765	765	765	765	765	765	765	765	765	765	765	770	775	780	785	790
70	750	755	760	765	770	770	770	770	770	770	770	770	770	770	770	770	770	775	780	785	790
75	750	755	760	765	770	775	775	775	775	775	775	775	775	775	775	775	775	775	780	785	790
80	750	755	760	765	770	775	780	780	780	780	780	780	780	780	780	780	780	780	780	785	790
85	750	755	760	765	770	775	780	785	785	785	785	785	785	785	785	785	785	785	785	785	790
90	750	755	760	765	770	775	780	785	790	790	790	790	790	790	790	790	790	790	790	790	790
95	750	755	760	765	770	775	780	785	790	795	795	795	795	795	795	795	795	795	795	795	795
100	750	755	760	765	770	775	780	785	790	795	800	800	800	800	800	800	800	800	800	800	800
105	750	755	760	765	770	775	780	785	790	795	800	805	805	805	805	805	805	805	805	805	805
110	750	755	760	765	770	775	780	785	790	795	800	805	810	810	810	810	810	810	810	810	810
115	750	755	760	765	770	775	780	785	790	795	800	805	810	815	815	815	815	815	815	815	815
120	750	755	760	765	770	775	780	785	790	795	800	805	810	815	820	820	820	820	820	820	820
125	750	755	760	765	770	775	780	785	790	795	800	805	810	815	820	825	825	825	825	825	825
130	750	755	760	765	770	775	780	785	790	795	800	805	810	815	820	825	830	830	830	830	830
135	750	755	760	765	770	775	780	785	790	795	800	805	810	815	820	825	830	835	835	835	835
140	750	755	760	765	770	775	780	785	790	795	800	805	810	815	820	825	830	835	840	840	840
145	750	755	760	765	770	775	780	785	790	795	800	805	810	815	820	825	830	835	840	845	845
150	750	755	760	765	770	775	780	785	790	795	800	805	810	815	820	825	830	835	840	845	850

※網掛け部は、ケコミ高さが合いません。

（表1）

1 設置場所の確認

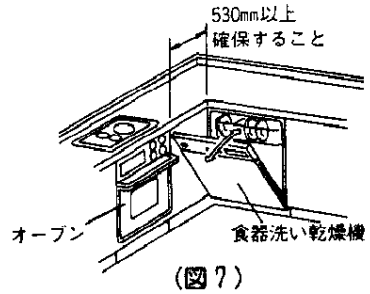
お願い

■L型配列の場合

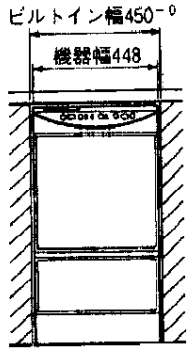
●流し台がL型配列の場合、食器洗い乾燥機をコーナー部に設置すると、オーブンなどによっては、本機のドアを開閉する際にオーブンなどの取っ手部に当たり、故障修理の際に本機が引き出せない場合がありますのでドア開閉のスペースを確保してください。(図7参照)

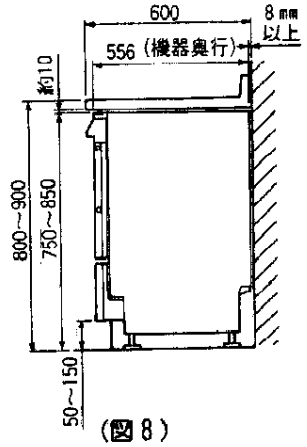
■機器本体と可燃性のカウンター下面とは約10mm、後面は8mm以上離して設置して下さい。(図8参照)

※本体の金属部品が家屋の壁中のメタルラス、ワイヤラスや金属板、流し台のステンレス板と電気的に接触しないようにしてください。(電気設備技術基準第182条により義務づけられています。)



(図7)





(図8)

5 電気工事

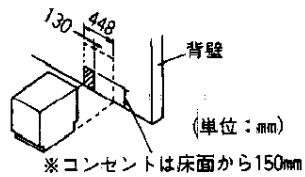
1 電源の確認

■工事は全て電気設備技術基準に準じて行ってください。

●電源回路は100V、15Aの専用回路が必要です。

●本体を設置する場所の背壁に、給・排水管工事部分を避けた位置(図9)に埋込みボックスを設け、これに電源電線、アース線を配線しておいてください。
(コンセントは125V、15Aのアースターミナル付埋込みコンセントを設けてください。)

●本体の電源(電圧、周波数)表示は銘板に示しています。(図42)



※コンセントは床面から150mmの範囲(図の斜線部)に取り付けてください。
(図9)

⚠警告

15Aのコンセントを単独で使用する。
他の器具と併用したり、容量以下のものは、異常発熱して発火する原因になります。

確認

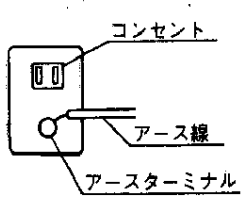
2 アースについて

●市販の炭素接地棒を使用される場合、アース工事は必ずお買い上げの販売店か電気工事店にご依頼ください。
(電気工事士の有資格者がD種接地工事をするよう法令で定められています。)

●ガス管や水道管、電話や避雷針のアース線には絶対に接続しないでください。(法令などで禁止されています。)

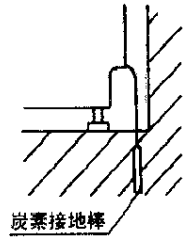
●設置場所の変更やご転居の際には、再度アースの取り付けをしてください。
(アース工事は有料ですのでご了承ください。)

アースターミナル付コンセントの場合



(図10)

炭素接地棒を使用の場合



(図11)

⚠警告

アースを確実に取り付ける。
故障や漏電のときに感電する恐れがあります。
アース線はガス管や水道管、電話や避雷針のアース線に接続しない。
アースが不完全な場合は、感電の原因になります。

アース確認

6 配管工事

1 配管工事

給湯・給水工事、排水工事例

■本機は配管直結タイプですので設計及び施工工事の段階で給・排水の位置決めは正確に行ってください。

- 給湯管は給湯用塩化ビニルライニング鋼管（相当品）を使用してください。
- 配管工事が図12～15の寸法になっているか確認してください。
- **排水管の高さが規定より低いと、においの原因になることがあります。**
- 排水配管は呼び径以上のものを使用してください。かつ曲折部は90°ベンド、45°ベンドを使用してください。
- **給湯、排水配管の端面は、バリのないよう処理してください。かつ管内に残っている異物（切り粉など）を完全に取り除いてください。配管つまりによる故障の原因となります。**
- 排水本管に至るまでの接続部品(図示していない)も耐熱塩ビを使い、配管用接着剤は耐熱用を使用してください。
- [図12]、[図14]、[図15] の場合、ドライバー用アングル型止水栓を必ず取りつけてください。(止水栓は閉じた状態にしておいてください。)
- 給湯圧力は0.03～1MPa {0.3～10.0kgf/㎠} の範囲でご使用ください。水圧が高すぎると水漏れの原因になりますので、高水圧地域（0.6MPa（6kgf/㎠）以上）では減圧弁を取り付けて0.2MPa（2kgf/㎠）程度に減圧してください。

■本機は本体高さ寸法により給湯（給水）管（B寸法）・排水管（A寸法）の床面からの高さが変わります。（図12～15）

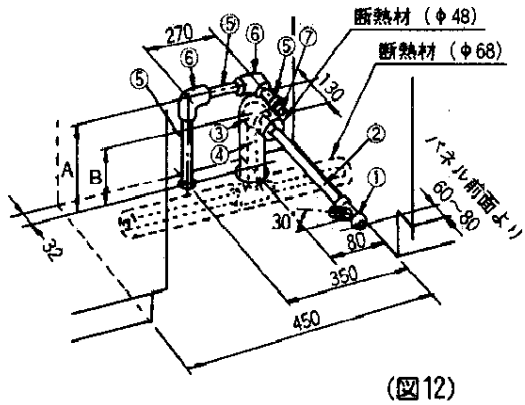
表2を参照して高さを決定してください。

単位（mm）

本体高さ	750	755	760	765	770	775	780	785	790	795	800
A寸法	127	132	137	142	147	152	157	162	167	172	177
B寸法	80	85	90	95	100	105	110	115	120	125	130
本体高さ	805	810	815	820	825	830	835	840	845	850	
A寸法	182	187	192	197	202	207	212	217	222	227	
B寸法	135	140	145	150	155	160	165	170	175	180	

（表2）

①床立上げの配管例



（図12）

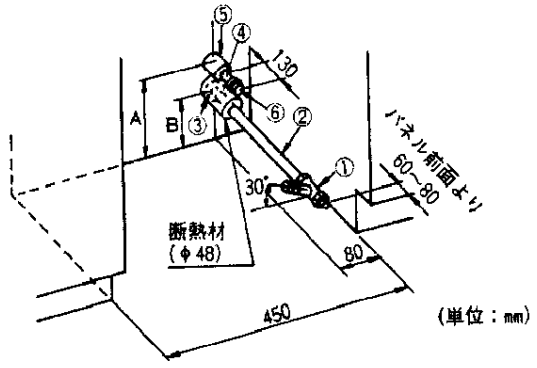
給湯(給水)(給湯の場合は耐熱配管)
①ドライバー用アングル型止水栓
②給湯用塩化ビニルライニング鋼管(相当品)
③Rc1/2エルボ
④給湯用塩化ビニルライニング鋼管(相当品)
（断熱材巻付けφ48）

排水（耐熱塩ビ使用のこと）
⑤HT25相当品
⑥エルボ
⑦ソケット（付属品）

※排水管⑤の長さは、キッチン奥行L＝650mm基準です。キッチン奥行L＝600mm時は、80mmになります。

1 配管工事

②壁出しの配管例



(図14)

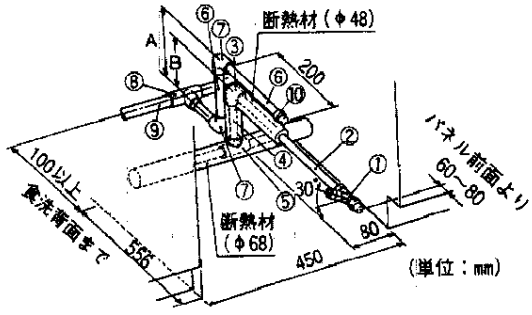
給湯(給水)(給湯の場合は耐熱配管)
①ドライバー用アングル型止水栓
②給湯用塩化ビニルライニング鋼管(相当品)
③Rc1/2ソケット
(断熱材巻付けφ48)

排水（耐熱塩ビ使用のこと）
④HT25相当品
⑤ソケット
⑥ソケット（付属品）

※排水管④の長さは、キッチン奥行L＝650mm基準です。
キッチン奥行L＝600mm時は、80mmになります。

③床ころがしの配管例

＜注＞キッチン奥行L＝750mm又は水切りによって壁面と食器洗い乾燥機背面との距離に余裕がある場合のみ可能です。



(図15)

給湯(給水)(給湯の場合は耐熱配管)
①ドライバー用アングル型止水栓
②給湯用塩化ビニルライニング鋼管(相当品)
③Rc1/2エルボ
④給湯用塩化ビニルライニング鋼管(相当品)
⑤チーズ
(断熱材巻付けφ48、φ68)

排水（耐熱塩ビ使用のこと）
⑥HT25相当品
⑦エルボ
⑧径違いチーズ（40×25）
⑨VP40
⑩ソケット（付属品）

2 給湯器

給湯器の確認

●給湯接続の場合は10号以上の先止め式ガス湯沸器、石油給湯器、中型以上の深夜電力利用温水器などで70℃以下の温度に調整可能な機器に接続してください。また、給水圧力は食器洗い機の入口で0.03～1MPa {0.3～10.0Kgf/㎠} の範囲でご使用ください。水圧が高すぎると水漏れの原因になります。

⚠注意

●**元止め式ガス湯沸器、小型深夜電力利用温水器からの配管は絶対しない。**

禁止

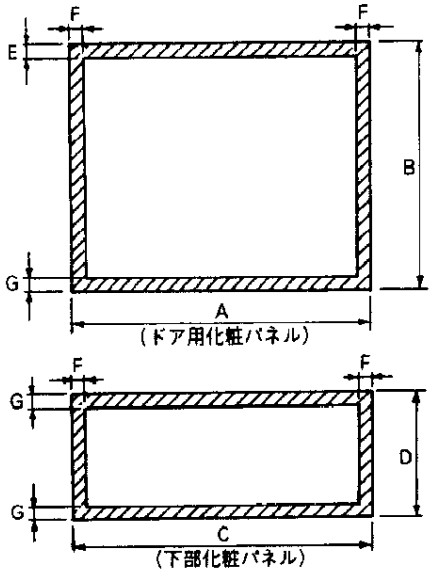
●**特に高水圧地域（0.6MPa（6kgf/㎠）以上）では給湯器に所定の減圧弁を必ず取り付けて0.2MPa（2kgf/㎠）程度に減圧する。**

確認

7 設置工事

1 パネルの取り付け方法

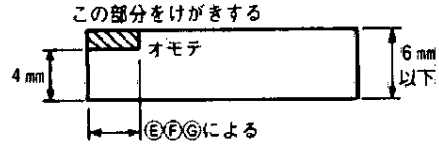
本機には化粧パネルは付いておりません。
化粧パネルを取り付けて使用する場合は下記の手順で取り付けてください。
化粧パネル寸法図



(図16)

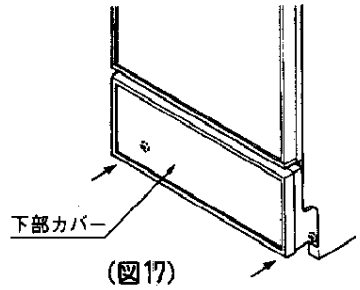
A	433±1
B	397±1
C	433±1
D	187±1
E	5
F	4
G	8.5

厚さ4㎜以上6㎜までのパネルをご使用になる場合は、外周（斜線で指定した部分）の表面を、厚さ4㎜以下になるようにけがきをしてください。

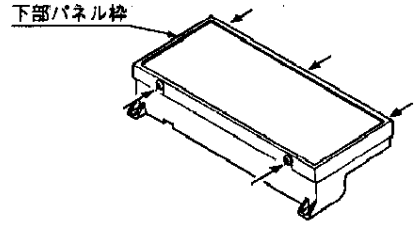


1．下部化粧パネルの取り付け方

①下部カバー取り付けねじ2本を外し、下部カバーを取り外してください。
②下部カバーのパネル枠取り付けねじ5本を外し、下部パネル枠を取り外してください。
③下部化粧パネルをはめ込み下部パネル枠を取り付けてください。



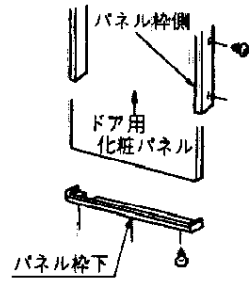
(図17)



(図18)

2．ドア用化粧パネルの取り付け方

①パネル枠下取り付けねじ3本を外してください。
②パネル枠側（左、右）取り付けねじ（各2本）をゆるめてください。
③ドア用化粧パネルをパネル枠上の溝に挿入してパネル枠側（左、右）の取り付けねじ（各2本）を締めてください。
④パネル枠下を取り付けてください。



(図19)

2 本体の高さ調節

●本機は本体の高さを調節します。

表３を参照して高さを調整してください。　　単位（mm）

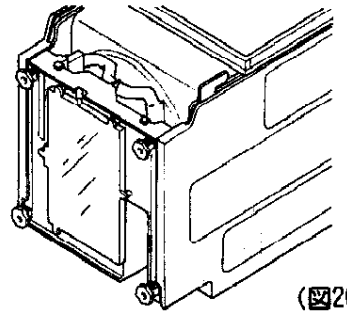
本体高さ	750	755	760	765	770	775	780	785	790	795	800
調整ナットNo.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
脚寸法	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
H寸法	8.5	13.5	18.5	23.5	28.5	33.5	38.5	43.5	48.5	53.5	68.5
本体高さ	805	810	815	820	825	830	835	840	845	850	
調整ナットNo.	12	13	13	13	13	13	13	13	13	13	
脚寸法	—	—	5	10	15	20	25	30	35	40	
H寸法	63.5	68.5	73.5	78.5	83.5	88.5	93.5	98.5	103.5	108.5	

（表３）

①本体の後部を下にして底面を手前にしてください。

②本体の高さを調整してください。

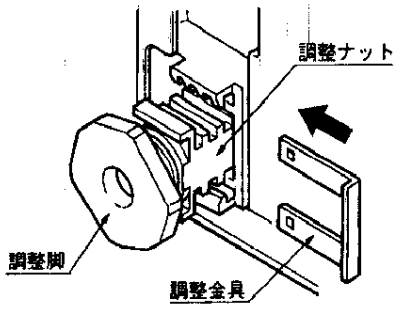
●本機は４ヶ所の調整ナットにワンタッチで高さ調整ができる調整金具が付いています。



（図20）

本体高さ750～810の場合

調整金具を抜き、表３の調整ナットのNo.の位置に高さを合わせ、調整金具を差し込んでください。

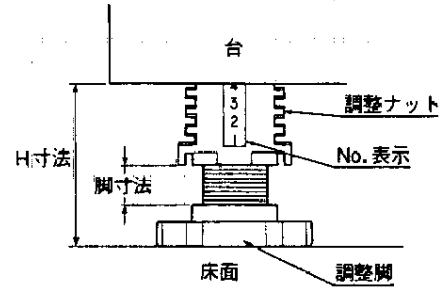


（図21）

本体高さ815～850の場合

調整金具を抜き、調整ナットのNo.が13の位置に高さを合わせ、調整金具を差し込んでください。

次に調整脚を回転させ、表３の脚寸法分引き上げてください。



※H寸法はケコミ寸法ではなく、床面から調整ナットを止めている台までの寸法です。

（図22）

※調整金具の着脱は㊀ドライバーやプライヤーを使用すると容易に作業できます。

※調節脚の高さが４本とも同じになっていることを必ず確認してください。

⚠注意

調節脚の高さ、および床面を水平にする。

ドアが左右に片寄り、ドアのカツギ、開閉時の異音、水漏れの原因になることがあります。

3 上部フィラーの取り付け

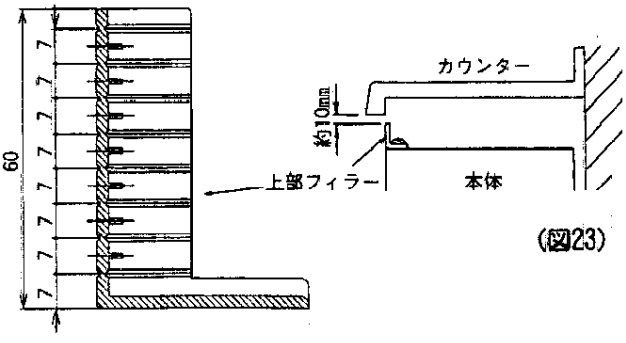
■RKW-453Cの場合

（上部フィラーが無い仕様もあります。）

上部フィラーの加工と取り付け方法

①図23の様にカウンターとのすき間が約10mmになるように上部フィラーをV字の溝にそってカッターナイフなどで切断します。

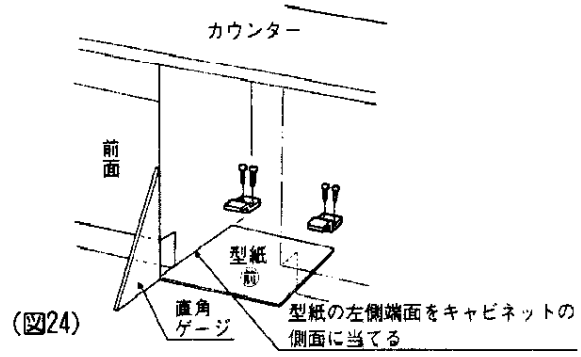
②付属のねじ２本（色シルバー）で本体に取り付けます。



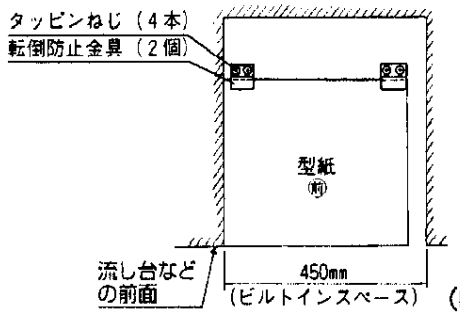
（図23）

4 転倒防止金具の取り付け

①転倒防止金具は付属品を使用し、固定してください。転倒防止金具（2個）を床面に取り付けてください。型紙（本体左側部の厚紙）を図24、図25のように床面に敷き、後部指定位置に転倒防止金具（2個）を置いて付属品のタッピンねじ（4本）で取り付けてください。

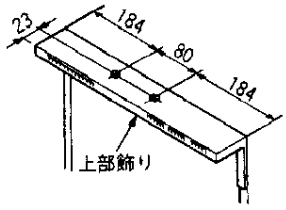


（図24）



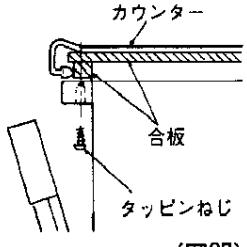
（図25）

②型紙をはずしてください。

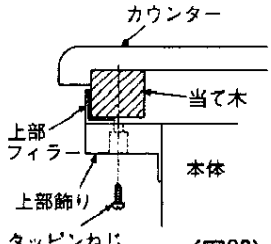


（図26）

- コンクリート床面など転倒防止金具の取り付けが困難な場合は、図27のように食器洗い乾燥機のドアを開いてカウンター合板部分へ直に付属のタッピンねじ2本で固定することもできます。
  また、カウンターと食器洗い乾燥機との間にすき間があり、上部フィラーを使用する場合は、図28の様にカウンターに当て木をしてください。
  （但し、人工大理石カウンターなどはできません。）
- 本体とカウンターを固定する時に、タッピンねじを締め過ぎないでください。
  上部飾りが変形する恐れがあります。



（図27）



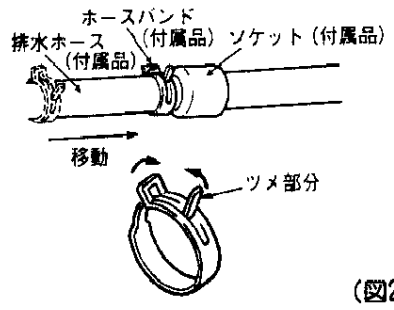
（図28）

5 本体のビルトイン

1．排水ホースの接続

排水管に接着してあるソケット（付属品）に排水ホース（付属品）を充分に挿入し、ホースバンド（付属品）を取り付けます。（図29）

※ホースバンドの固定方法（ホースバンドは前もって排水ホースにセットしてあります。）ホースバンドはツメ部分をプライヤーなどで確実につまんで排水ホースとソケットの接続部へ移動させて固定してください。



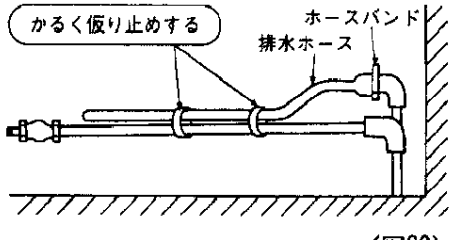
（図29）

⚠注意

- **ホースバンドは、排水ホースから外さない。**
  ホースバンドが飛んでケガをする恐れがあります。
- **ホースバンドは、プライヤーなどで確実につまむ。**
  排水ホースから外れますとホースバンドが飛んでケガをする恐れがあります。

2．配管の仮り止め

ビルトイン作業時に排水ホースを通しやすいようにするため給湯（給水）管へ図30のようにビニールテープなどでとめてください。



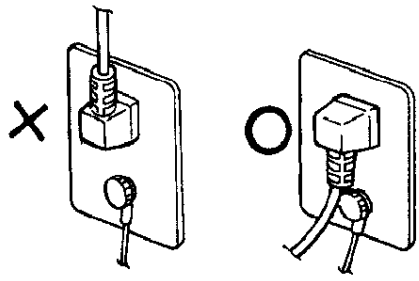
（図30）

3．電源コード・アース線の接続

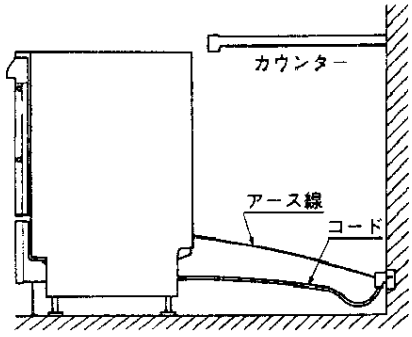
①電圧が100Vであることを確認してから埋込みコンセントに電源プラグを差し込んでください。
②アース線をアースターミナルに接続してください。

⚠注意

- **電源プラグはコードが下方向に出るようコンセントに差し込む。**
  コードが上方向に出ますと、機器をビルトインした時、コードが傷つくことがあります。



(図31)



(図32)

⚠警告

- **電源プラグは刃および刃の取付面にホコリが付着している場合はよく拭く。**
  火災の原因になります。

必ず行う

⚠注意

- **電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず先端の電源プラグを持って引き抜く。**
  感電やショートして発火することがあります。

必ず行う

- **電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントの差込みがゆるいときは使用しない。**
  感電・ショート・発火の原因になります。

禁止

- **電源コードを傷付けたり、破損したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしない。また、重い物を載せたり、挟み込んだり、加工したりしない。**
  電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。

禁止

4．本体のビルトイン

- 隣接する機器などに注意をし、給湯（給水）管、排水ホースの先を開口部から挿入するようにして、本体の下方をゆっくりと押しながらビルトインしてください。

お願い

- **床面の凹凸で調整脚のすべりが悪くスムーズにビルトインできないことがあります。無理やり押さないでください。脚が変形する恐れがあります。床面にポリエチレンシートを貼り付けるなど、配慮してください。**
- **ビルトイン作業のとき排水ホース、給湯（給水）管、電源コード、アース線にキズや折れ曲がりなどのないようにしてください。**
- **ビルトインした後、ドアの左右の片寄りを確認してください。ドアの片寄りがある場合、ドアのカツギ、開閉時の異音、水漏れの原因になることがあります。次ページの“5．ドアの片寄りの調整”を参照し、調節してください。**

5 本体のビルトイン

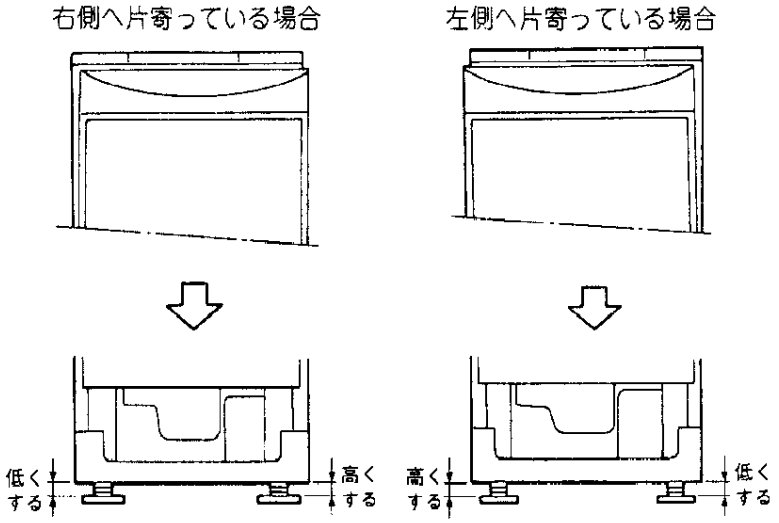
5．ドアの片寄りの調整

■ドアの片寄りの調整

①本体をビルトインした状態で、ドアの片寄りを確認してください。

②片寄りの方向によって前側の脚高さを調節します。本体の前面を少し持ち上げ、脚の下部をモンキーなどで回して調節してください。

※床面を傷つけないよう注意してください。



(図33)

6 配管の接続

1．排水ホースの接続

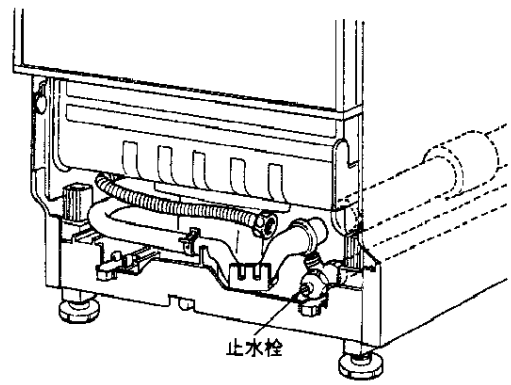
●ビルトインが完了すると図34のように給湯（給水）管・排水ホースがダクトより突出します。

●排水ホース（本体）を接続したトラップは、事前に台枠のツメ嵌合部（図35）にはめ込んでいますので、はずれていないことを確認してください。

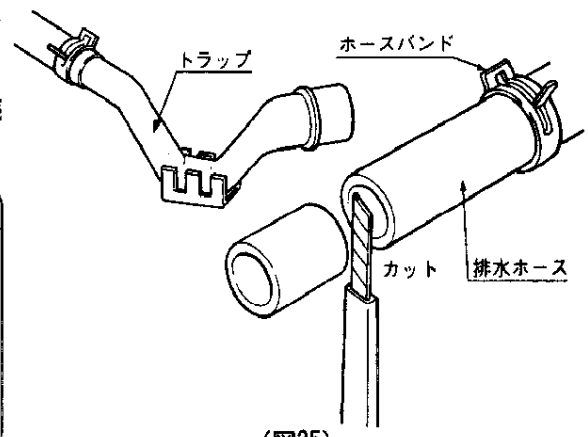
①排水ホース（付属品）は若干長めになっています。排水ホースが折れないように、トラップに合わせた時、排水ホースが長すぎる場合はカットして調整してください。

②排水ホース（付属品）をトラップのストッパーに当たるまで挿入し、ホースバンドで固定してください。

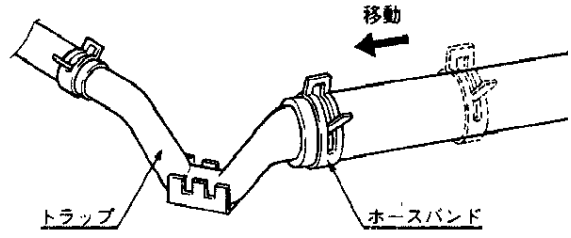
※ホースバンドの固定方法（ホースバンドは前もって排水ホースにセットしてあります。）ホースバンドはツメ部分をプライヤーなどで確実につまんで排水ホースとソケットの接続部へ移動させて固定してください。



(図34)



(図35)



(図36)

⚠注意

- **トラップを本体からはずした場合は、かならず元の位置にはめ込む。（トラップ機構として法令上必要）**
- **接続部には必ず図に示すホースバンド（付属品）をはめる。（トラップ機構として法令上必要）**
- **排水ホース（付属品）を接続した後、台枠にはまり込んで容易にはずれないことを確認する。**
- **ホースバンドは、排水ホースから外さない**
  ホースバンドが飛んでケガをする恐れがあります。
- **ホースバンドは、プライヤーなどで確実につまむ。**
  排水ホースから外れますとホースバンドが飛んでケガをする恐れがあります。

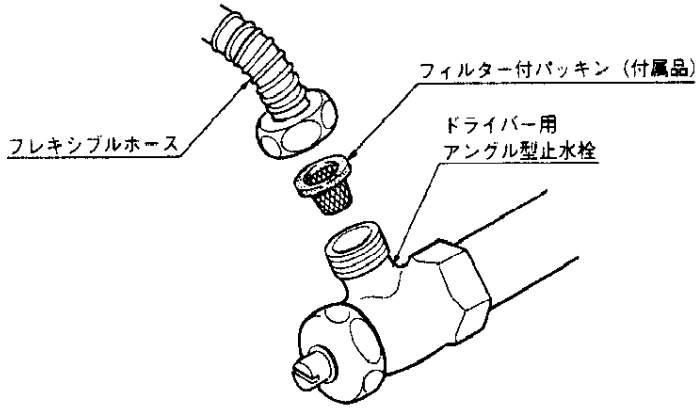
6 配管の接続

2．給湯（給水）管の接続

①フレキシブルホース（本体）をドライバー用アングル型止水栓に確実に接続してください。(フィルター付パッキンの向きに注意)

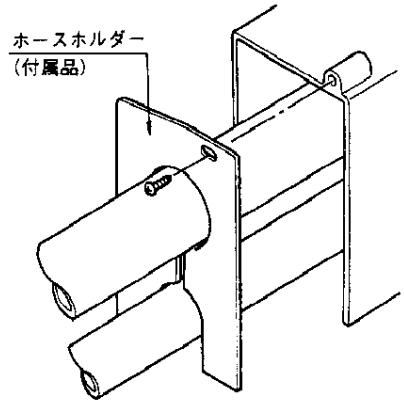
※必要以上に強く締付けますと、パッキンが破れますのでご注意ください。

ナットは手で軽く締め込んだ後、約半回転ぐらい締め付けてください。適正締付トルクは5～10N・m（50～100kgf・cm）



(図37)

②付属品のホースホルダーを給湯（給水）管・排水ホースにはめ込み、ダクト前面開口部にタッピンねじ（付属品）で取り付けてください。



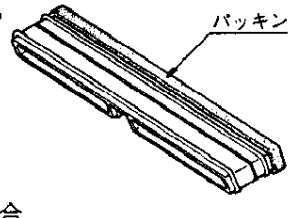
(図38)

7 排気ダクトの調節

■カウンターの先と本機の前面との距離により排気ダクトの長さを調節してください。

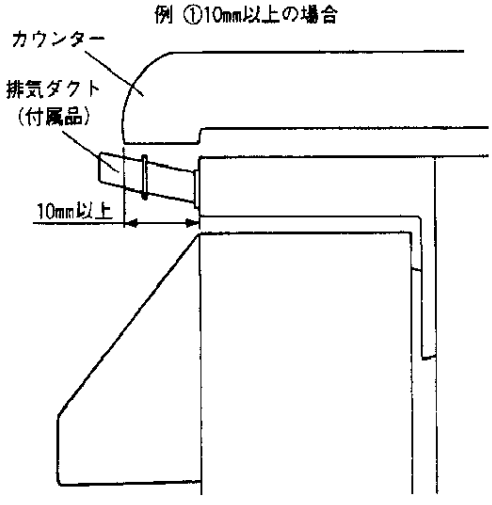
①10mm以上の場合

図39の様にパッキンを巻いてねじ1本で排気口へ固定してください。



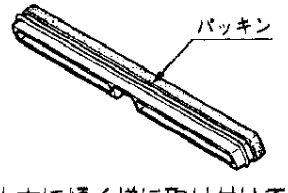
(図39)

例 ①10mm以上の場合



②10mm未満の場合

図40の様に排気ダクトのV字の溝で切断しパッキンを巻いてねじ1本で排気口へ固定してください。



(図40)

※排気ダクトが上方に傾く様に取り付けてください。(図41)

(図41)

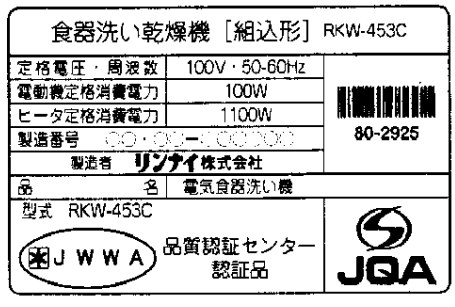
8 設置工事後の点検

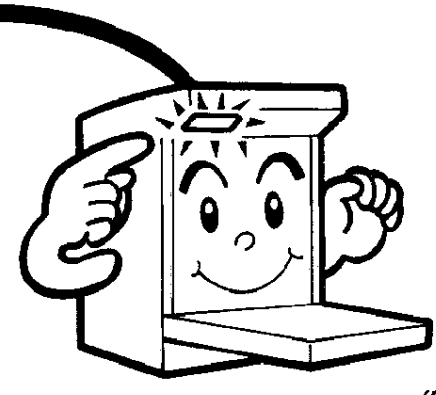
チェックリスト

点検		点検内容	参照項目	チェック
その周辺機器及び	電源（電圧）	銘板表示と使用電源が適合していますか。	5－1	
	ドアの開閉	他の機器への障害はありませんか。	4－1	
	排気ダクト	アンダーカウンターにビルトインする場合、カウンターの最前部より前に出ていますか。	7－7	
給湯（給水）・排水接続	給湯器との接続の場合	指定する給湯器に接続されていますか。	6－2	
	フィルター付パッキン	フレキシブルホースと止水栓との接続部にフィルター付パッキンを挿入しましたか。	7－6	
	排水ホース	排水管との接続部は確実に接続したことを確認しましたか。また押しつぶされたり、無理に折れ曲がったりしていませんか。	7－6	
電気接続		電源コンセントは専用回路で、電源プラグは125V 15Aのアースターミナル付埋込みコンセントに接続しましたか。	5－1	
		アース線を接続しましたか。	5－2	

※点検・修理の際には製造番号の確認が必要になることがあります。
製造番号は銘板に表示してあります。

（例）RKW-453C 仕様の場合





（図42）

9 試運転

■取扱説明書にもとづき、試運転を行ってください。なお、次の手順で試運転を行うと短時間で行うことができます。

①止水栓を開きます。

②食器カゴを水槽内から取り出します。
試運転の時に配管内のサビが食器カゴに付着する恐れがあるためです。

③ドアを閉じます。（RKW-453Aおよび453Bはレバーを「とじる」の位置までいっぱいに動かしてください。）

④「電源ボタン」を押して、電源を「入」にします。

⑤「コース」ボタンを押して「予洗い」コースを選んでください。

⑥「スタート／一時停止」ボタンを押してください。
（「予洗い」コースが開始し、約7分間で終了します。）

⑦次の確認を行ってください。

●一定量の水が入ればシャワーを噴射しながら水槽内のノズルが回転します。
（噴射音：パシャパシャ音が聞かれるか確認してください。）

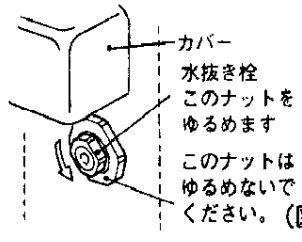
●運転が終了しますとブザーが鳴り、電源が「切」になりますので、終了後ドアを開けてください。（水槽内の水が排水されていることを確認してください。また運転中給排水接続部からの水もれがないことを充分確認してください。）

⑧水道の元栓を閉じてください。

⑨給水弁の水抜き栓をスパナなどでゆるめ、給水弁の水抜きをします。（図43）
（凍結による破損防止のためです。）
※必ず水道の元栓を閉じた後に行ってください。

⑩給水弁の水抜き後、水抜き栓をスパナなどで締めます。

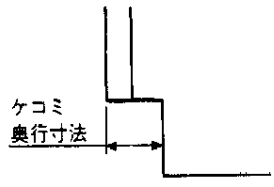
⑪食器カゴを元の位置に取り付けてください。



（図43）

10 ケコミカバーの取り付け

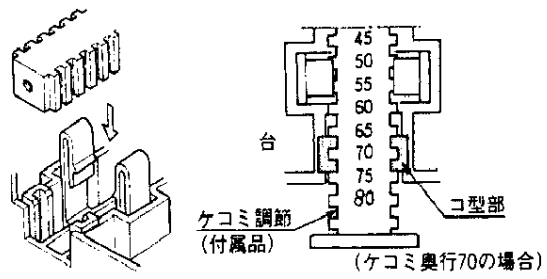
①キッチンのケコミの奥行寸法を測定します。



(図44)

②キッチンのケコミの奥行寸法（mm）に近いケコミ調節に刻印されている数字を台のコ型に合わせてケコミ調節を台に差し込みます。

※ケコミの奥行寸法の調節範囲は35～80mmです。

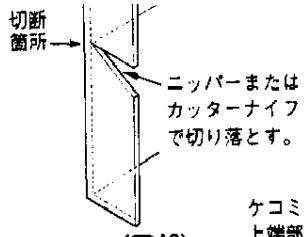


(図45)

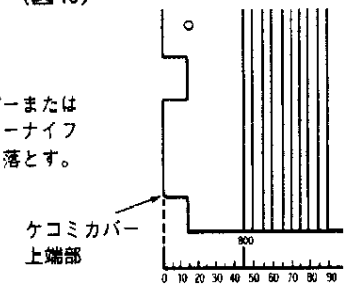
③ケコミカバーを本体の高さに合わせて切断します。

最初に切断箇所の左右及び中心のリブをニッパーまたはカッターナイフで図46のように切ります。つづいて裏面のV溝をカッターナイフで2～3回切り込めば切断できます。

（切断長さは下図のケコミカバーカット位置を参照してください）



(図46)

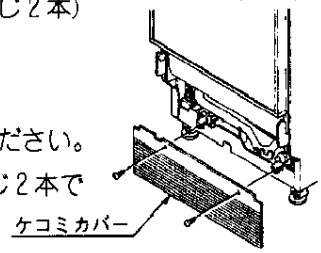


(図47)

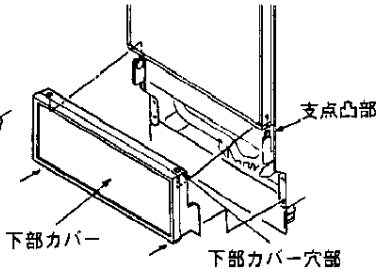
④ケコミカバーをケコミ調節に取り付けます。(図48)（ねじ2本）

⑤ケコミカバーを取り付け後、下部カバーを取り付けてください。

※下部カバーの穴部を本体の支点の凸部に引っ掛けてねじ2本で取り付けてください。(図49)

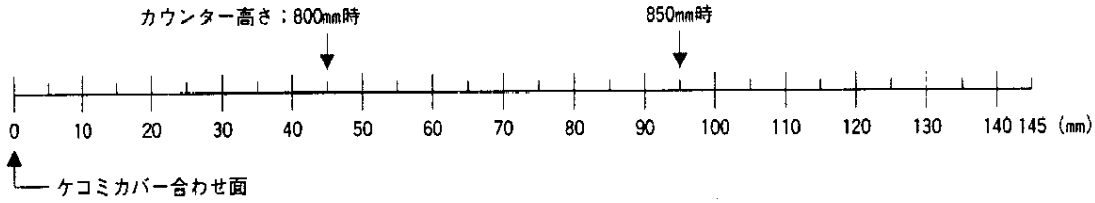


(図48)



(図49)

ケコミカバーカット位置



11 お客様への取り扱い説明

①取扱説明書によって製品の取り扱いを説明してください。

②保証書に必要事項を記入のうえ、保管のお願いをしてください。

製造者 リンナイ株式会社

本社 名古屋市中川区福住町2番26号 電話 052(361)8211(代) 〒454-0802